

平成22年度 第2回予防接種運営委員会 会議録

日 時	平成23年2月14日(月) 13:30~14:30
会 場	芦屋市医師会医療センター 2階会議室
出席者	委員長 鈴木 紀元 委員 北井 明 委員 河盛 重造 委員 姉川 詔子 委員 磯森 健二 委員 北野 章 事務局 北口 泰弘 瀬戸山 敏子 久保田 あずさ 井上 登代美
事務局	健康課
会議の公表	公 開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

(1) 議題

- ・平成22年度予防接種事業実施状況について
- ・平成23年度予防接種事業実施予定について
- ・その他

2 提出資料

- 資料1 平成22年度予防接種事業実績について(第7章 感染症対策・予防接種)  
新型インフルエンザ接種者報告書
- 資料2 平成23年度予防接種事業実施計画について  
平成22年度芦屋市の予防接種について、日本脳炎ワクチン接種について(お知らせ)子宮頸がん等ワクチン接種促進事業市民向け案内文
- 資料3 子宮頸がんを予防するために

3 審議経過

(開会)

鈴木委員長挨拶

(鈴木委員長) それでは議題に入ります。事務局から説明してください。

(事務局井上) 平成22年度予防接種事業実績について説明いたします。

資料1の説明

(鈴木委員長) 今見たところ、麻疹風疹のワクチンの接種率が低いですね。

これであつたら、はしか輸出国のままですね。

(事務局瀬戸山) 1期については、個別の案内をしますのでかなり90%台にあがります。まだ、12月の実績なので、これからあがってくるとおもいます。2期については、就学前の健康診査で、受けていない方に予防接種をすすめています。MR2期の未接種者が34.5%なので、これらの方がうけていただいたら、90%台になると思いますので、これからが追い込みだと思っています。3期・4期については、勸奨ハガキを1月に出したところなので、これから反応がでてくると思います。20年度21年度と少しずつ接種率は上がってきているので、個別通知等できる対策はすべて取り組んで

いますので、後は予防接種週間等で少しでも接種が増えればと思っています。

(鈴木委員長) 日本脳炎の未接種者も多いですが、はしかについては、国際的に約束しているみたいだからがんばらないといけないですね。

(鈴木委員長) 副作用の報告はどうか？

(事務局瀬戸山) 今年度1件も副反応の報告はありません。

(鈴木委員長) ご質問はありますか

(姉川委員) 就学前の予防接種で、予防接種の確認をするなかで、完了率がありますが、各小学校の完了率を見ているとかなり地区によってばらつきがあるようですが。これは何か地区によって取り組みをしているのですか

(鈴木委員長) これは人数ではなく率でみないといけないですね。打出浜小学校や宮川小学校の完了率が高いですね

(河盛委員) これは、よくみるとMR2期の未接種者はあまりかわらないです。日本脳炎の未接種者の差ですね。日本脳炎の未接種者は、言っただけなんですけど、そんなに重要ではないので、いやな人は受けなくてもいいです。完了していないから、いけないというのではなく、予防接種はみんな同じ重要度ではないので、たとえば、MR接種者がへってきている。予防接種には重要度にランクがある、これは一番重要、2番手3番手といったところを、一般の方はよく理解していない。集団の方が大事と思いがりオとBCG以外受けていない人もいます。個別接種は重要でないと考えている人もいます。個人の希望と思って受けていない人もいます。日脳とMRは同じではない。

(鈴木委員長) 精道小学校は日脳未接種者が多いですね

(河盛委員) 宮川小学校は、逆にMR未接種者が多く、こちらの方がかえって問題である。

(鈴木委員長) とにかく、MR2期は100%めざすつもりでやらなくてははいけない。

(鈴木委員長) 次に議題2の説明を事務局お願いします。

(事務局井上) 平成23年度予防接種実施計画について説明いたします。

#### 資料2の説明

(河盛委員) 不活可ワクチンの問い合わせがはいつてくるようになったが、国が認可していないワクチンを一部の医師が個人輸入して接種しているが、不活可ワクチンは副作用がないわけではなく、不活可になる副作用がないというだけで、不活可ワクチンとしても副反応はある。不活可ワクチンでなにか起こった場合は、何の補償もない。今の状況であれば、自由接種ですらないので、何の補償もないが、そのあたりを市民は知らない。これをこのままにしておいてもいいのかと思うが。

(事務局瀬戸山) 不活可ワクチンの問い合わせは増えています。生ワクチンの接種だというと、芦屋市は遅れているものすごく怒られることもある。

(河盛委員) 不活可の生ワクチンの副反応は300万人に1回、アムが起こるのとかかわらないと思うが、不活可ワクチンだと接種回数が4回に増えるので生ワクチンの2倍の接種回数になるのでリスクが倍になると思う。もちろん、不活可になるリスクは低くなるが。

(鈴木委員長) たまに問い合わせがありますね、うちは責任がもてないからやりませんと伝えていきます。

(事務局瀬戸山) テレビで報道した後に問い合わせが増える。メディアの影響が大きいです。

(河盛委員) 不活可ワクチンとは言ってもまったく副反応がないわけではないので、その辺のリスクをちゃんと理解しているのか。

(事務局瀬戸山) 不活可ワクチンを受けますと宣言し、こちらの説明をうけつけない市民

もいます。

(鈴木委員長) 難しいですね。よその国での報告をみて決めるのは、かしこい方法だと思うが、それまでに、副反応がでてしまうこともあるし。

(河盛委員) どうしてもしたくなければやらない選択肢もあると思う。

(河盛委員) BCGが、来年度集団なのはいいですが、県下ではほとんどが個別接種となっている、ワクチンについては、ヒブ・肺炎球菌は再来年度定期接種化になるであろうから、BCGについても、個別化にするほうが予防接種の計画がたてやすい。遠からず芦屋市も個別接種にさせていただいたほうがよいでしょう。来年度は新しいワクチンがでてきて混乱していると思うのでいいが、再来年度には、0歳児がヒブ・肺炎球菌の対象年齢になり、経過措置期間は終わるので、0歳の予防接種はすべて個別接種の方がよいと思う。

(鈴木委員長) 今年度は、新しいワクチンがでてきたのでしかたがないとおもいますが、市としては個別化について、どのように考えていますか？

(事務局北口) BCGについては、個別化と思っていたのですが、接種率が低下する可能性があり来年度は見送っていますが、24年度については、考えていかなければならないと思います。

(河盛委員) ホリアについては、個別になれば二次感染の危険性があるので、生ワクチンのあいだは、集団接種なのはしかたがないと思う。

(鈴木委員長) BCGは製剤としては、まだ集団用のアンプルがあるのですか？

(事務局瀬戸山) すべて個別用アンプルになっています。

(鈴木委員長) BCGは個別化に対応できるのですね。

(鈴木委員長) わかりました。では3番目子宮頸がん等ワクチン接種事業について事務局説明してください。

(事務局井上) 子宮頸がん等ワクチンについて説明します。

#### 資料2 子宮頸がん等ワクチン接種促進事業市民向け案内文

(北井委員) 国際中等学校の校医をしています。芦屋市は自己負担0円、西宮市、尼崎市は自己負担がありますが、それ以外の情報があれば教えてください。

(事務局北口) 西宮市・尼崎市は一割負担、それ以外は自己負担なしです。

(北井委員) 他市ではいろいろしていると思いますが、皆自己負担なしですか。

(事務局北口) 先行して実施していた市町もありますが、国の制度については、同じです。県下ではなしと聞いています。

(北井委員) 1月1日から開始といいますが、案内が来たのは1月末くらいでしたよね。市民の方は、ほとんど知らないのではないですか？

(事務局北口) ホームページは1月1日からアップし、広報誌では、1月15日にお知らせをしています。芦屋市は1月21日に個別通知していますが、他市ではしていない所もあるようです。

(河盛委員) 子宮頸がんワクチンでの、副反応が1件ありましたので、ここでお知らせしておきます。厚生労働省にはすでに、報告しています。高校2年生の任意接種ですが、接種後、失神とけいれん、数十秒で回復しましたが、失禁もありました。

(鈴木委員長) 厚生労働省から警告ありましたね

(河盛委員) メーカーからは、2万人に1回といわれているのですが、続けて起こることもあって、精神的なものもあるので、あまり強調しないほうがいいと思います。このワクチンはうってからしばらくしてから、痛くなってくるので、接種した後、迷走神経反射で失神を起すことがあります。

- (河盛委員) 日本の今までのワクチンと違い、アジュバントという免疫強化剤が入っているので、それが接種後すぐに吸収されずに、かなり痛くなります。
- (河盛委員) 年齢的にも、失禁はありえる。頭をうったりするので注意が必要です。
- (北井委員) 高校1年生はあわてて打つ場合もあるので、注意がいきますね。
- (河盛委員) 今回は、親が同伴していたのでよかったのですが、親が同伴していないと、本人は失神したことを覚えていなかったもので、説明が大変であったと思います。
- (鈴木委員長) 予防接種の説明にも書いてありますが、保護者の同伴があった方がいいですね。
- (事務局瀬戸山) 1月21日に通知をしたといたしましたが、MRもそうですが、個別通知をしても徹底しないので、このチラシ(案)のとおり、芦屋病院の佐治先生にご講演いただいたあと、説明会を開催します。主催は、芦屋市と芦屋病院と教育委員会で開催します。この度、ワクチン接種において、急遽、説明会を実施することになりました。
- (鈴木委員長) 佐治先生は、産婦人科が専門なのでよいでしょう。接種対象者の保護者の方にできるだけ周知して、啓発をしていただくことは大切です。
- (北井委員) この時期であれば、学校保健委員会を通して周知してもいいですね。
- (事務局瀬戸山) 今回は、PTAを通じて案内を通知しています。
- (北野委員) その説明会は、何名参加ですか
- (事務局瀬戸山) 150名です。
- (北井委員) 接種医療機関にもチラシをおいたらいいですね。私も、子宮頸がんワクチンを接種した方には案内します。
- (事務局瀬戸山) 学校と契約医療機関にチラシをおかせてもらおうと思っています。なるべくたくさんの方にきていただきたいと思っています。
- (鈴木委員長) 以上でだいたいおわりですね。なにか、ほかに意見のあるかたはいますか
- (事務局 久保田) 次回の開催については、23年6月頃を予定しています。
- (鈴木委員長) 以上で、終了とします。

閉会